

—平成27年度—

中学入学試験問題

—国語—

《解答時間：60分》

《配点：150点満点》

—注意—

1. 問題は試験開始の合図^{あいず}があるまで開かないこと。
2. 問題用紙のページ数は、表紙を除いて15ページ、解答用紙は1枚である。不足している場合は、ただちに申し出ること。
3. 解答はすべて、問題の番号と解答用紙の番号が一致^{いっち}するよう、解答用紙の解答らん^{らん}に記入すること。所定のらん以外の解答や、不明りょうな書き方をした解答は採点しない。（※印のらんには記入しないこと）
4. 開始の合図があったら、まず解答用紙に受験番号・氏名を記入すること。

1 次の文章を読んで、あとの(1)～(12)の問いに答えなさい。

こうして教室に持っていた霧ふきも、ひと月たつうちには、ほとんど使われなくなっていた。

いいだしつぺの奈々美が、(A) がんばったのは、ほんの一週間。

「今度は、杏子ね」

おしつけたきり、あとは見むきもしない。

何人かの女の子たちが、時々、キャーキャーさわぎながら、やってくれたけど、そんなもの、すぐにあきてしまう。岡田君は岡田君で、係だなんて気持ち、とつくのむかしになくしてる。

——そうなんだ。どんどん色あせて、黄ばんでく木なんて、ちつともきれいじゃない。みんなのこと、せめたりしてるわけじゃない。

「霧ふき、どうなった？」

おばあちゃんに、(B) たずねられた。

そのたび、わたしは、くり返した。

「うん、もう少しね」

「もし、もどつてこないんなら、べつの買つとかなくちやならないからね」

「だいじようぶ。ちゃんと持って帰るよ」

ベンジャミンの木は、そうこうするうちに、日ましに勢いがなくなつて、(C) かれてしまった。

ほとんど a はだかになった木を捨てることになった日、浅井先生はひどくがっかりして、

「やっぱり、だめだったか」

と大きなため息をついた。

ベンジャミンの木がおいてあった教室のかたすみは、からんとマがぬけたようで、白い壁が、やけに目だった。

でも、みんなすぐに、小さな木のことなどわすれてしまった。三年三組は、一週間後にせまったクラス対抗のドッジボール大会にむけて猛練習を始めていた。

わたしも、ベンジャミンの木から、ようやく解放されて、みんなといっしょに休み

—1—

時間、放課後つぶしての練習や作戦会議におわれた。

「杏子、霧ふき、いいかげんに持って帰っておくれよ」

きのうの夕方、とつぜん、おばあちゃんからいわれた。

——しまった。いきなり返すこともなかった。うっかりしてた。毎日、大会のためのごたごたにまぎれて、(D) 霧ふきのことをわすれていた。ここ何日も、見かけてなかった。

けさ、だれよりも早く、教室にかけつけた。でも、霧ふきは、どこにも見あたらない。奈々美にきいても、岡田君にきいても知らなかった。

④ 口いっぱいに、苦い味がひろがった。

おばあちゃん、あんなに何度もきいたのに——。ないならいい。たしかに、そうだった。それでもわたしは、くり返した。だいじようぶだいじようぶ、ちゃんとあるから——。

今さら、I。

奈々美が先生に話して、先生からクラスのみんなにきいてくれたけど、だれも知らなかった。もし、知ってる子がいたとしても、いい出しはしなかった。校庭や水飲み場、放課後には、ほかの教室までみんなでさがしまわったけど、やっぱり見つからない。

わたしは、おばあちゃんにほんとのこと、いい出す勇気がない。⑤ あんなに調子いい返事して……。ほんと、今さら、II。

学校から帰ると、つくえのひきだしから、こづかい取り出して、バス通りの荒物屋にかけこんだ。

同じもの、あるだろうか？ 水色で、たしか、からくさもようのものがついていた。

ない……ない……そんなの、ない。

でも、しかたない。なるべくにたようなのをさがすしか……。もしかしたら、おばあちゃん、細かいもようなんて、覚えてないかもしれない。——いや、そんなことはないな。あんなに長いこと、使ってたんだもの。ほんとにどういうわけだか、おばあちゃんの持ち物、どれも、ちょっと特別なんだ。どこにでも売ってるようなものだって、色や形が同じだって、どこか、なにかがちがつてる。(E)、おどろくくらい、

—2—

物持ちがいいからあれはきつと、いつのまにか、おばあちゃんのおいとく、くせとか、そんなものがしみついてしまうんだね。

スズメの絵の湯のみ茶わん、つげのくし、毛糸の部屋ばき……きつと、どこにあったって、ひと目でわかっちゃうんだろうな。

⑥ 考えてるうちに、ますます気持ちが落ちこんできた。

わたし、いったい、なにをしようとしてるんだろう？ こんなことして、ごまかせるわけなんかないのに——。でも、このままじゃすまされない。それは、わかってる。だから……だから、しかたないじゃない。わたしなりに、しまつつけるし——。

形のいちばんにてる水色の霧ふき、包んでもらって店を出る。

でも、やつぱり、いざとなったら、面とむかって手わたすことできなかった。そうしたらたぶん、うそをいってしまうもの。それだけは、どうしてもできなかった。

おばあちゃんの部屋に、そつとしのびこんで、茶だんすの上に置くと、急いで表へ、とび出した。

⑧ 一件ラクチャク。むりやり、自分にいいきかせた。これ以上、いじいじしたって始まらない。だから、思いっきりはしゃぎまわって、夕方おそめに帰ってみると——わたしのつくえの上に霧ふきは、b ⑨ 返されていた。

おばあちゃんは、なにもいわない。⑨ そのことが、よけい、こたえた。胸のあたりがずきつとした。

わかってたはずだ。おばあちゃんのこと。おばあちゃんは、こんなやりかたが、なによりもきらいなんだ。ごまかせるなんて、考えてたわけじゃないのに——。なに、どうして？ ひよつとして、ひよつとして、このまま大目に見てもらえる——そんなふうに調子よく思ってたのかも……。あまかった。

気づまりなふんい気のなかで、ごはん食べたり——^注 純が、ひとりでぺちやぺちやしゃべってた。⑩ あいつのとんちんかんな話も、こんなときには、ありがたい。

ごめんなさい、つてひと言いいばいいのかな？ でも、それもできずに、わたしはだまったまま食事を終えて、部屋に引きあげた。

つくえの上の霧ふきを畳に置いて、⑪ セイザした。にらめっこするときみたいに、しんけんな顔で、じいっと見つめた。

たかが、霧ふき……たかが、霧ふき。いったい、なんだっていうのさ？
どこにでもある、ありきたりの霧ふき一こ。こんなもののために、孫むすめと口もきかないなんて、おかしいんじゃないの？ そんなおばあちゃん、いったいどこにいるっていうの？

わたし、知らないからね、もう。

勝手におこつてれば？ いつまでも、そうしてれば？

指先でポンとはじきとばしたら、霧ふきはごろんと畳の上に転がった。わたしも、まねして転がってみる。

あーあ、どういつてみたつてだめだあ。

救われないよ、こんな気分。

霧ふきつかんで立ちあがると、つくえのひきだしに、音たててほうりこんだ。

(泉啓子『風の音をきかせてよ』)

注 純……杏子の弟

(1) — 線②⑧⑪のカタカナを漢字に改めなさい。

(2) (A) (E) にあてはまることを、次のア～オの中から選んで、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二回使えません。

ア つい イ ほんとに ウ せっせと エ 何度も オ とうとう

(3) a b には、下に続くことばの意味を強めるはたらきをするひらがな二字が入ります。それぞれ答えなさい。

(4) — 線①「そんなもの」とありますが、これはどういうことを指していますか。二十字以内で答えなさい。(、。などは字数に数えます)

(5) —線③「夕方」について、これは訓読みの漢字を重ねたことばですが、

1 同じように訓読みを重ねてできたことばを次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 鳥肉 イ 湯茶 ウ 役場 エ 団子 オ 戸口

2 音読みを重ねてできたことばを次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 屋台 イ 和服 ウ 荷物 エ 親身 オ 値段

(6) —線④「口いっぱいに、苦い味がひろがった」とありますが、このときの杏子の気持ちの説明として、次のア～オの中から最もふさわしいものを選んで、記号で答えなさい。

ア おばあちゃんに霧ふきを返す約束をしておきながら、それをすっかり忘れてしまいい、ドッジボールのことに夢中になってしまった自分に嫌気がさした気持ち。

イ おばあちゃんをだまそうとするつもりは全くなかったのに、結果的にうそをつかざるを得ないことになってしまい、つくづく自分の運の悪さを嘆く気持ち。

ウ 霧ふきなど返さなくても、おばあちゃんは大目に見てくれるだろうと高をくくっていたのだが、あてが外れて、どうしていいかわからず追いつめられた気持ち。

エ 本当に霧ふきをおばあちゃんに返すつもりでいたのに、結局それができなくなつたため、おばあちゃんに合わす顔がなくなつてしまい、うろたえる気持ち。

オ クラスのために霧ふきを学校に持って来たのに、水やりの仕事を押しつけられ、おばあちゃんの信用も失ってしまったということに納得がいかない気持ち。

—5—

(8) —線⑤「勇気」とありますが、「勇」という漢字の部首は「力(ちから)」です。

次の1～3の空らんには、部首が「力」である漢字を二字組み合わせた熟語がそれぞれ入ります。それぞれの熟語に共通する漢字一字を答えなさい。

1 父は市役所に している。

2 な仕事ぶりを上司に認められた。

3 感謝の日を祝う。

(9) —線⑥「ますます気持ちが落ちこんできた」とありますが、それはなぜですか。次のア～オの中から最もふさわしいものを選んで、記号で答えなさい。

ア 何をやっても問題の解決にはならないのに、うわべをつくろうことばかりを考えずにはいられない自分を、どうすることもできないことが苦しくてたまらないから。

イ 代わりの霧ふきをこっそり用意してごまかそうかと考えても、おばあちゃんにはとても通用しないことがよく分かっているので、むなしさがこみあげてくるから。

ウ いろいろないいわけを考えてみても名案が浮かばないし、クラスメートに相談することもできず、自分一人が苦しい思いをし続けなければならないと思っているから。

エ 霧ふきのことごとになって、おばあちゃんとの関係が悪くなるうえ、自分のこづかいまで出して穴埋めをしなければならないことがとてもうらめしいから。

オ 自分が悪いわけでもないのに霧ふきはなくなるし、おばあちゃんからは責められて踏んだり蹴つたりの状態だが、そこから抜け出す方法も考えられないから。

(10) —線⑦「わたしなりに、しまつつける」とありますが、具体的にはどうすることですか。三十字以内で答えなさい。(。などは字数に数えます)

(7)

I

II

 にはほぼ同じ意味内容のことばが入ります。いずれにも

あてはめることのできることを、十字程度で考えて答えなさい。(。などは字数に数えます)

—6—

(11) —線⑨「そのことが、よけい、こたえた」とありますが、それはなぜですか。次のア～オの中から最もふさわしいものを選んで、記号で答えなさい。

ア 何も言ってくれないと、おばあちゃんが私のどういうところに対して怒っているのかとらえどころがなく、謝ろうにも謝るきっかけがなかなかつかめないから。

イ 霧ふきのことくらいおばあちゃんは大目にみてくれると思っていても、自分からそれを言い出すわけにもいかないし、いつまで待てばいいのか見当もつかないから。

ウ 黙っているおばあちゃんを見て、つまらない見栄を張ったばかりに、もはや本当のことも言い出せず、身動きができなくなった自分を見透かされたと感じたから。

エ 代わりの霧ふきを用意しても満足してもらえないとは分かっていても、いざ机の上に戻されているのを見ると、自分の思いが無視されていることが分かるから。

オ はつきり言ってくれた方が、おばあちゃんの気持ちも分かるし、こちらのすべきことも分かるのに、黙っていると疑心暗鬼になって不安ばかりが大きくなるから。

(12) —線⑩「あいつのとんちんかん話も、こんなときには、ありがたい」とありますが、それはなぜですか。次のア～オの中から最もふさわしいものを選んで、記号で答えなさい。

ア おばあちゃんとの関係がぎくしゃくして気づまりな雰囲気の中に身を置かなければならなくなった自分が、一時的ではあるにせよ、その雰囲気から逃れられるから。

イ 行き場を失い八方ふさがりになってしまった自分にとって純は、たとえとんちんかな話であつても私を励まし、勇気づけ、希望を与えてくれる救世主だったから。

ウ 問題は解決したと思ひ込んで、自分一人だけがはしゃぎ回っていてもむなしさが募るばかりだが、純がそれに同調してくれることで、自分の孤独が癒されるから。

エ 霧ふきをなくしたのは自分ではないし、許してもらえらうというあてが外れて、気持ちが落ち込んでいた自分を、純の底抜けの明るさが和ませてくれたから。

オ たかが霧ふきくらいなこと、惨めな思いをしなければならなくなるようなつまらない人間は、自分一人ではないと思うと、少し安心できるような気がするから。

2

次の文章を読んで、あとの(1)～(10)の問いに答えなさい。

私は大学を卒業して一年くらい経つまで、コンソメスープをコンソメスープだと思っていた。①カタカナだと判り辛いと思うが、「こそそめ」だと思っていたのだ。

なぜ大人になるまで間違いに気付かなかったのかと思うかもしれないが、私は現実を改ざんしてまで、ずっとそれを信じ続けていた。②皆が、そのスープを「こそそめ」と呼んでいることには気付いていた。けれど、私は自分の頭の中を修正しなかった。

皆が「こそそめ」という言葉をAにすると、彼らが飲んだり手にしたりしていたのは缶やレトルトのコンソメスープだった。私は、皆はそのせいであえて「こそそめ」という間違った呼び名で呼んでいるのだろう、と勝手に解釈した。そこから、

レストランで本当のシェフが作った本物のそのスープだけが「こそそめ」という正式名称で呼ばれる権利があるのだろう、と勝手な思い込みは発達していった。

私はあえて買って飲むほどのそのスープが好きではないが、きつとレストランで出される本格的なものはさぞかし美味しいことだろう。その時こそ、「これは美味しい！これはこそそめスープだね」「本当ね、これはレトルトのこそそめなどとは一味違うわ。これこそ、本物のこそそめスープだわ」などという会話が交わされるのだろう、と想像していた。いつかちゃんとしたレストランで、「こそそめ」の称号を与えられる本物のそのスープを飲んでみたいなあ、と想像していた。

大学を出て一年ほどして、私はファミレスでアルバイトを始めた。そのファミレスはチェーンにしては本格的な料理を出すことが売りな店だった。ある朝、私は一人のジョウレンのおじさんにコンソメスープを運んでいた。料理に自信がある店だけあつて、それは本格的で美味しそうだった。私は(ちよつと)B「前味噌かなあ」と思いながら、「お待たせしました。こそそめスープでございます」と、そのスープをうやうやしくおじさんのテーブルに置いた。

いつも無口で無然としていたそのおじさんは私のセリフを聞いてびっくり！と肩を震わせ、物凄い勢いで顔をあげ、私の顔を凝視した。おじさんの激しいリアクションを見て、(ああ、やつぱりファミレスのスープが「こそそめ」を名乗るなんて、ちよつと図に乗りすぎていたんだ)と思った。しかしその時Cの隅で、(ひよつとしたら、こそそめスープというのは、この世に存在しないのではないか)という考えが閃いた。

そんな訳ないと思いつつ何となく引つ掛かった私は、バイトを終えると友達にこそめスープについてメールしてみた。「ばかー！ 意味がわからないよ！」という返信を見て、私はこの世にこそめスープが存在しないことを知った。

その日からしばらくは可笑しくてしょうがなくて、その話を家族や友達に話して大笑いして過ごした。だが、それからいくら日がたっても自分の中から「こそめスープ」という存在が完全に消滅することはなかった。理屈では自分の勘違いだとはわかっていても、安いチェーンのお店でカップに入った a スープが出れば、(これは b とは到底呼べないな、 c だな) と思ったり、ちゃんとしたレストランでメニューに d スープの文字を見つければ、(これは e に違いない) と思ったりした。

思えば、もう二十年以上もこそめスープのある世界で育ち、生きてきたのだ。私は、それが嘘である世界には、もう戻れないのだった。

いろいろ考えてみた末、私はこれからもこつそりと、こそめスープのある世界で暮らしていくことにした。さすがに口にはしないように気を付けるようになったが、心の中では、いつまでもこそめスープという概念を消さずに生きていくことに決めた。もちろんそんな言葉はどの辞書にも載ってないし、こんそめが正しいのも知っているが、私が二十三年間信じていたのだから、ある意味では私にとってはこそめスープのある世界のほうが真実なんじゃないかと思うのだ。

私のようなバカなケースでなくとも、人は皆、自分の作り上げた X の世界で暮らしているところがあるのではないだろうか。ある道を歩いていても、一人はそこが新宿方面に繋がっていると言つて疑わず、もう一人はこの先は公園になって行き止まりになっていると主張する。たとえ現実にはその道は二年前に工事されて渋谷方面に繋がるようになっていたとしても、二人は違う現実の中を歩いている。

そんな風に考えると、今、同じ場所を歩いている隣の人も、その隣の人も、自分の作り上げた異世界で暮らしているんだと思えてくる。同じ場所を歩いていても、脳が違う限り、私たちは違うコウケイの中にいるのだ。

私には、それが凄く楽しいことに思える。それぞれの世界を行き来できたらもつと楽しいのになあと思う。隣の人の住む世界に遊びに行き、その脳の持っている情報の中で日常を過ごす。それは私の住む世界とはまったく違う異世界だろう。こんなにそ

ばに異世界への扉が無数にあるというわけだ。そのドアを、ぜひ開けてみたい。そしていつか、私の住む世界にも遊びに来て欲しいと思う。その時は、ぜひ、一緒にこそめスープが飲みたい。私の住む異世界に遊びに来てくれた人と一緒に、生まれて初めての本物のこそめスープを味わえたら、とてもうれしい。

(村田沙耶香「こそめスープ」)

注 無然……ふきげんなさま

(1) 線①④⑨のカタカナを漢字に改めなさい。

(2) 線②「私は現実を改ざんしてまで、ずっとそれを信じ続けていた」とありますが、これはどういうことですか。それを説明した次の文の 1 2 にあてはまることばを、それぞれ字数に合わせて、文章中からぬき出して答えなさい。

筆者は、皆が (六字) などのスープをあえて「こんそめ」と呼んでおり、(三字) なスープだけが「こそめ」と呼ばれるのだと勝手に解釈して、ずっと自分を納得させてきたということ。

(3) A C に入る、体の一部を表す漢字一字をそれぞれ答えなさい。

(4) 線③「ファミレス」とありますが、ことばの成り立ちが「ファミレス」とは異なるものを、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア パソコン イ マスコミ ウ コンビニ エ ハイテク オ スマホ

(5) —線⑤「うやうやしく」⑥「図に乗り」とありますが、ここではどのような様子を表していますか。それぞれ次のア～オの中から最もふさわしいものを選んで、記号で答えなさい。

⑤	うやうやしく	⑥ 図に乗り
	ア かたくなに	ア 意気どむ
	イ にぎやかに	イ つけあがる
	ウ おぼつかなく	ウ 勘違いする
エ	あらたまつて	エ うのみにする
	オ わざとらしく	オ おだてられる

(6) —線⑦「その話」とありますが、次のア～オの中から、筆者がこの時にした話として最もふさわしいものを選んで、記号で答えなさい。

ア 友達が「こそそめスープ」とは何かをわかってくれた話。
 イ おじさんが「こそそめスープ」の意味を教えてくださいました話。
 ウ 私がおじさんに本物の「こそそめスープ」を提供した話。
 エ チェーンとしては「こそそめスープ」が美味しかった話。
 オ 実際には「こそそめスープ」が存在しなかったという話。

(7) a e には、ア「コンソメ」、イ「こそそめ」のいずれかのことばが入ります。それぞれ記号で答えなさい。

(8) —線⑧「それが嘘である世界」とありますが、これはどういう世界のことですか。十五字以内で答えなさい。(。などは字数に数えます)

(9) X にあてはまる四字のことばを、 X より前からぬき出して答えなさい。

(10) —線⑩「私の住む異世界に遊びに来てくれた人と一緒に、生まれて初めての本物のこそそめスープを味わえたら、とてもうれしい」とありますが、筆者がそのように言うのはなぜですか。その理由を六十字以内で答えなさい。(。などは字数に数えます)

3 次の文章を読んで、あとの(1)～(9)の問いに答えなさい。

文化としての科学の表現に対して、広く一般の人々が関心を持つようになるには、科学者はどうすればよいでしょうか。

概して、人の話を聞く場合、大切な^①はその内容と同じくらい、またはそれ以上にその人への関心であり、さらには信頼です。それがあれば少々難しいことでも耳を傾け、学ぶ気持ちになります。話上手でなくても惹きつけられます。

ここで思い出すことがあります。私が学生の頃は、湯川秀樹先生が日本で初めてノーベル賞を受賞され、朝永振一郎先生もその候補としてあげられるなど、物理学が輝いていた時代でした。(a)、朝永先生の講義をぜひ聞きたいと思い、憧れの気持ちで教室に行きました。先生は文章がお上手でし、みごとな講義をしてくださっているには違いないのですが、なにせお声が小さくボソボソと話されるのです。でも、先生の話聞きたい一心で耳を傾けました。講義はわかりやすくなければならないという基準を作って学生に評価させるのが最近のフウチョウですが、それとはまったく別の魅力でした。

幸い朝永先生も湯川先生も生物学に強い関心を持っていたので、大学院生になってからは、物理の難しい話でなくDNAや細胞についてのお話をする機会がありました。そのような時先生方は、常に新しい学問を学ぶ楽しさを感じておられるのがわかりました。科学に限らず、さまざまなことに関心向けられている幅の広さがインシヨウ的で、これが若者を惹きつける力なのだと感じたのを思い出します。

教育とはまさに、こういうものでしょう。先生への信頼が基本です。最も大事なことは人間として語っているかどうかということです。それを考慮せずに、科学は難しい特別の分野とし、科学者・科学技術者は、普通の人と同じ考え方ができない、普通の言葉も話せない人としてしまうことには疑問を感じますし、それをしてはいけなと思います。

専門のことはそれを専門とする人が最もよくわかっているのですから、その人に聞くのが最もよいはずで、私は仕事の中で専門の異なる方たちと話す機会が多く、その場合、数学、情報科学、言語学など、なじみのない分野の話聞くこともよくあります。それらをすべて理解することなど到底できません。正直、難しいと思います。(b)、お話の中から自分にとって本当に大切なことを探し出すことはできますし、

最も得るところが多いのはやはり専門家に直接話を伺った時です。

あらためて強調しておきたいのですが、専門家への信頼がなくなっている理由は、現在の科学として科学者のありようそのものが間違っているからなのです。その根本を直さずにコミュニケーションを置くことで解決しようとするのは間違いだと思います。

⑦ 専門家の言葉を受けとめる社会の側も、「言葉の意味をよく考えることの大切さ」を改めて認識しなければなりません。とくに、新たな技術を標榜する新しいキャッチフレーズが独り歩きしがちです。生物学の関連で言うなら一九八〇年代に「バイオテクノロジー」という言葉が流行し、製造業だけでなく、出版社までその研究に参入するというジタイになりました。しかし、どのような技術を用いて何を生み出すのかという明確な道筋もなく言葉だけが躍った感があり、その流れから確たる産業構造が生まれることにはなりません。⑩「よくわからないから無関心」でも「過剰な期待」でもない態度で、科学が明らかにした成果やそこから生まれた科学技術を、適切に利用できる社会を作っていくためには、社会を構成する一人一人が、自律的に自分の感覚で、考えていかななくてはなりません。

(中村桂子『科学者が人間であること』)

注 コミュニケーター……専門的なことを普通の人にも分かるように伝える人。

(1) 線②④⑩のカタカナを漢字に改めなさい。

(2) 線①「の」と同じ働きで使われているものを、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 明日はこの本を持って行く。
イ 先生の話すことを書きとる。
ウ 友だちの本を借りて読んだ。
エ 母に聞いたのを忘れていた。
オ 昨日のことは二人の秘密だ。

(3) (a)・(b)にあてはまることばを、次のア～オの中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二回使えません。

- ア でも イ ところで ウ つまり エ ですから オ また

(4) 線③「別の魅力」とありますが、これについて説明した次の文の□にあてはまることばを、それぞれ字数に合わせて、文章中からぬき出して答えなさい。

朝永先生や湯川先生の、□(十一字)を感じる姿や関心の□(四字)を通して、若者からの□(二字)を集める、人としての魅力。

(5) 線⑤「なじみのない」とありますが、「くがない」「くもない」という表現はほかにもあります。次の1～4の□にそれぞれ漢字一字を補って、慣用句を完成させなさい。

- 1 □ のない……内容や値打ちがない
2 □ のない……似かよったものがない
3 □ がない……我を忘れるほど好きである
4 □ もない……少しもわずらしいことはない

(6) 線⑥「現在の科学として科学者のありようそのものが間違っているからなのです」とありますが、「現在の科学として科学者」はどのように考えられているかが分かる部分を文章中から六十字以内でぬき出して、初めと終わりの五字で答えなさい。(。などは字数に数えます)

(7) 線⑦「専門家の言葉を受けとめる社会の側も、『言葉の意味をよく考えることの大切さ』を改めて認識しなければなりません」とありますが、筆者はどのようにすることが「大切」であると考えていますか。六十字以内で答えなさい。(。などは字数に数えます)

- (8) — 線⑧「キャッチフレーズ」⑨「バイオテクノロジー」は外来語です。例にならつて、あとの1と3のそれぞれの空らんに通して入るカタカナを、指定された字数で答えなさい。

(例) ムード (四字)
 チャンス (四字)
 ↓答えは「メーカー」

1 (四字) チェンジ
 マイナス (四字)

2 (四字) ネット
 (四字) ナショナル

3 カウント (三字)
 (三字) ロード

- (9) — 線⑪「無関心」は「関心」に「無」をつけてできたことばですが、次のア～コのうち、「無」「非」「不」「未」をつけたことばが二つ以上できるものをすべて選んで、記号で答えなさい。

ア	理解	イ	養生	ウ	公開	エ	開放	オ	意識
カ	平等	キ	合理	ク	適合	ケ	完全	コ	関係

